

日本臨床検査専門医会

平成 22 年度第二回常任幹事会議事録

平成 22 年 3 月 12 日

平成22年度 第二回常任幹事会 議事録

日 時：成22年3月12日（金） 午後3時～午後4時50分

場 所：日本臨床検査医学会事務局

出席者：渡辺 清明会長、渡邊 卓副会長、佐守 友博副会長、
矢富 裕、山田 俊幸、土屋 達之、村田 満、東條 尚子各常任幹事、
水口 國雄監事（総数10名中9名出席）

欠席者：高木 康監事

事務局：藤本梨恵

議事の審議内容及び議決の結果

司会者の東條幹事が開会を宣し、事務局の藤本より、3分の1以上を満たしたことが発表され、総会の定足数に準拠し本会議成立を確認の上、議長として渡辺会長を満場一致にて選任。議長より挨拶の後、議案の審議に入った。

審議事項

第一号議案 議事録署名人選任について

議長は本会の議事録署名人の選任を議場に諮ったところ満場一致をもって次の者を選任した。

議事録署名人 土屋 達行幹事、山田 俊幸幹事

第二号議案 平成22年度予算案について

議長は、本年度の予算案について、その詳細を東條庶務・会計幹事に説明させた上、これを議場に諮ったところ、全員異議なく承認可決した。なお、予算案については、本議事録の末尾に添付する（資料1）。

第三号議案 教育研修セミナーの見直しについて

山田教育・研修委員長より同案について説明があった。

1. GMLセミナーの名称を『臨床検査専門医会 生涯教育講演会』とする。内容は、検査専門医取得者を対象に、検査室マネジメント（精度・リスク・人事管理）に関する講習とする。春季大会の会期中に開催し、2時間程度とする。時間帯は、1日目の懇親会の前、あるいは2日目の終了前（さらなる1泊を強いない終了時間とする）とするが、最終的には春季大会会長の裁断による。幹事会の承認が得られれば、平成23年度の春季大会から実施可能である。将来的には専門医更新の必修単位（5年に一回の聴講を必修）とするよう臨床検査医学会に諮りたい。

2. 教育セミナーを年1回（同じ内容を別地域で開催する場合を含む）とし、教育研修委員会の主催とする。内容は総論的な講義形式（検査専門医の役割、専門医試験の到達目標）とし、専門医試験のための実技研修は自施設あるいは、本会が推薦する研修受け入れ施設で行うよう指導する。平成24年度からの実施を目指す。

研修受け入れ施設のリストを作成するため、専門医全員に受け入れの可否アンケート調査を実施したい。

上記原案に対し、審議の結果、議長より議場に賛否を諮ったところ、全員異議なく当該議案は可決された。なお、本件議案については、以下の意見があった。

（渡辺卓副会長）受け入れ施設間で指導に差が出ないよう標準的なやり方を提示する必要がある。

（山田幹事）ビデオで指導内容を提供することも考えている。

（土屋幹事）専門医試験では、試験問題に対し結果を出すことが大切であり、施設による多少の手技の違いは問われない。研修により達成できた実技内容は卒後研修評価表にチェックをしてもらう方法がある。

（山田幹事）研修教育セミナーの形式変更をスムーズに行うため、基本方針を早めに周知したい。

第四号議案 事務局の移転について

議長は、業務量の増加に伴い現在の事務局が手狭となったため、事務局を移転する必要があることを詳細に東條庶務・会計幹事に説明させた上、これを議場に諮り、全員異議なく承認可決した。

新所在地：東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル9階908号

現所在地：東京都千代田区神田駿河台2-1-19、アルベルゴ御茶ノ水505号

移転日：平成22年 6月上旬（予定）

報告事項

1. 平成21年度会計報告について

議長の指名により、東條庶務・会計幹事から、前回の幹事会で指摘された個所を修正した仮決算で説明があった。早急に監査を受けた後、持ち回り審議により決算報告・監査報告の承認を諮ることが了承された。

なお、本件議案については、矢富幹事から以下の質問があり、これに対しては庶務・会計東條尚子から次のとおり回答した。

（矢富幹事）平成21年度の印刷代は予算2,100,000円に対し2,461,253円の支出で、361,253円の赤字となっているが、その理由はなにか。

（東條幹事）詳細を調査して報告する。

2. 賛助会費ならびに会員会費納入率について

議長の指名により、東條庶務・会計幹事から賛助会員ならびに会員の会費納入状況について、別添の資料によって説明があった。平成21年末に賛助会費が未納入であった賛助会員は全社納入された。数年前に比べ賛助会員が減少しているので、新たな賛助会員を募る予定である。平成21年度の会員会費納入率はA会員413人(76%)、B会員75人(51%)で前年度と比べ50名程少ない。平成22年度会費納入依頼には、過去4年間の納入状況を併記し、未納分も合わせて納入していただくよう働きかけている。

3. 各種委員会報告

① 情報・出版委員会

矢富委員長より、以下の活動報告があった。

- 1) Lab CPは平成21年12月に27巻2号を発刊した。現在28巻1号を準備中である
- 2) JACLaP WIREは、担当が今福先生から大西先生に代わり、No. 114号を平成22年2月に発刊した。
- 3) JacLAP NEWSは金子先生が担当し、No. 106号を平成22年1月に発刊した。次号(平成22年4月中旬発刊予定)を準備中である。
- 4) 日本衛生検査所の協会誌『ラボ』に、『気になる「癌と検査のこと」専門医が教えます』をシリーズ連載している(平成23年3月まで)。その次の企画を検討中である。
- 5) 要覧のアンケート受付中であり、3月末の締切後に回収し、状況を分析する。

② 教育・研修委員会

山田委員長より、セミナーの応募状況の中間報告があった。

③ 資格審査・会則改定委員会

土屋委員長より、休会規則(細則)に関して、軽微な修正をしたのち、次回の総会で審議を諮りたい旨の報告があった。

④ 渉外委員会

佐守委員長より、7月22(木)開催予定の第27回臨床検査振興セミナーについて、平成22年度診療報酬改定に関する講演を企画中である旨の報告があった。

⑤ 保険点数委員会

渡辺清明委員長より、平成22年度診療報酬改定において、検査専門医会から提案した6項目のうち、血液採取料の増点、染色体検査の増点、遺伝学的検査の増点、プロトロンビン時間の増点とトロンボテストの減点、血液細胞核酸増幅同定検査の算定要件変更の計5項目が認められた。末梢血液像のマニュアル法の増点は認められなかったとの報告があった。

4. ワーキンググループ活動報告

①専門医数増加方策検討WG

木村委員長に代わり、東條幹事から以下の報告があった。

活動目標は検査専門医増加に向けての問題点整理と具体的提言を行うこととし、春季大会時に第1回のWG会議を開催し、活動方針の確認、行動計画を策定する。まず、今年度中に会員ならびに検査管理医を対象にアンケートを実施して問題点を整理する予定である。なお、木村委員長の推薦により渡辺会長が任命するWG委員は、本議事録の末尾に添付する(資料2)。

②一般向け有料相談WG

村田委員長より、以下の報告ならびに提案があった。

本WGは、専門医を広く世に知らしめるための方策を具現化するためのひとつとして設けられたWGである。前回(2010.1.22)の幹事会で「予備的な検討の結果、一般向け有料検査相談は実行性の検証が不十分であり、引き続き検討したい。同時に専門医の認知度を高めるための他の方策を専門医会と日本臨床検査医学会の双方で考えて行くことを提案したい。」と報告した。そこで、本WGの目標を「専門医を広く世に知らしめる」とし、今後の具体的活動方針を、1)「臨床検査専門医」の広告を可能にすること。2)医療従事者に限らず一般社会への啓発を推進すること、としたい。以上より、本WGの名称を、「専門医広告・啓発促進委員会」(仮称)とし、日本臨床検査専門医会ならびに日本臨床検査医学会の合同WGとすることを提案する。

本提案は了承され、村田委員長から日本臨床検査医学会に対し、合同委員会(あるいはWG)を提案することとなった。

なお、WG活動については、以下の意見があった。

(渡辺清明会長)基本領域学会の中で、検査専門医だけが人数が少なく専門医広告を認められていない。積極的に専門医を増やす必要がある。

(矢富幹事)日本専門医制評価・認定機構の専門医制度整備指針(第2版)のなかで、いわゆる専門医資格を認定する団体の基準が『会員数が千人以上であり、かつ、その8割以上が医師であること』と記載されている。日本臨床検査医学会の会員は千人以上いるが、医師は8割以下であり、指針の見直しが望まれる。

(佐森副会長)臨床検査を広告する手段としては、臨床検査振興協議会のホームページを利用する方法がある。

5. 第20回春季大会で開催される幹事会ならびに総会の予定について

東條幹事から以下の報告があった。

第3回常任・第2回全国幹事会：

日時：6月4日午後5時15分～

場所：リーガロイヤルホテル小倉 4F 小宴会場 梅

第36回日本臨床検査専門医会総会

日時：6月5日午後1時05分～1時35分

場所：北九州国際会議場

6. その他

(ア) 平成24年度 第22回春季大会について

東條幹事から、中国・四国地域で開催を予定しており、日野田幹事に調整をお願いしている旨の報告があった。

(イ) WASPaLMについて

東條幹事から、代表者2名を、渡辺清明会長、渡邊卓副会長として登録する旨の報告があった。

以上をもって全議案の審議並びに報告を終了したので、議長は閉会を宣し解散した。

議事録署名人

平成 22 年 月 日

山 田 俊 幸 印

平成 22 年 月 日

土 屋 達 行 印

日本臨床検査専門医会 平成22年度予算案

資料 1

		項 目	平成21年度予算	平成22年度予算案	
収 入	会費入金	会員会費	5,700,000	7,050,000	
		賛助会員会費	4,200,000	4,000,000	
		雑収入	150,000	150,000	
		小 計①	10,050,000	11,200,000	
	その他入金	広告収入	600,000	600,000	
		教育セミナー参加費	900,000	800,000	
		振興セミナー参加費		100,000	
		利息・雑収入	10,000	20,000	
		前年度繰越金	15,531,038	13,142,030	
	小 計②	17,041,038	14,662,030		
	A. 収入合計 ①+②			27,091,038	25,862,030
	支 出	庶務経費	事務局雑費	220,000	150,000
通信費（事務局）			220,000	170,000	
人件費			2,200,000	1,800,000	
FAX・電話使用料			40,000	40,000	
会員登録			10,000	10,000	
事務所賃貸料			1,050,000	950,000	
設備費			250,000	150,000	
小 計①			3,990,000	3,270,000	
必要経費		印刷代	2,100,000	2,000,000	
		要覧印刷代	600,000	600,000	
		通信費	1,250,000	950,000	
		春季大会補助金	500,000	500,000	
		臨床検査振興セミナー	700,000	850,000	
		GLM補助金	800,000	600,000	
		教育セミナー補助	1,200,000	900,000	
		会議費	1,300,000	1,000,000	
		交通費	50,000	50,000	
		宿泊費	0	20,000	
		原稿料	150,000	50,000	
		HP維持費	250,000	250,000	
		HP更新費	0	520,000	
		JCCLS会費	50,000	50,000	
		WASPALM会費	60,000	40,000	
		臨床検査振興協議会	300,000	300,000	
		内保連会費	100,000	100,000	
		予備費	300,000	670,000	
		小 計②	9,710,000	9,450,000	
B. 支出合計 ①+②			13,700,000	12,720,000	
収支決算 A-B			13,391,038	13,142,030	
次年度繰越金			13,391,038	13,142,030	

専門医数増加方策 WG 委員

	氏名(敬称略)
委員長木村聡	上原由紀
	小倉加奈子
	金子誠
	鯉淵晴美
	清水力
	杉本一博
	東條尚子
	藤原久美
	松下弘道